

TOSHIBA

東芝調光操作卓

TOLSTAR III

客席調光ユニット

形名 **TRDM3-5J-HL**

取扱説明書

この度は東芝ライテック製品をお買い求めいただき誠にありがとうございます。
安全にご愛用いただくために、ご使用前には必ず取扱説明書をお読みください。

東芝ライテック株式会社

目 次

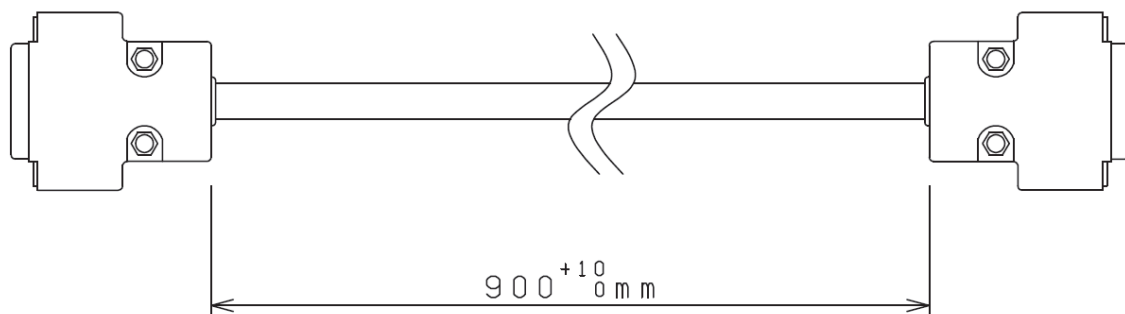
ご使用の前に	1
付属品を確認する	2
安全上のご注意	3
客席調光ユニットの使い方	8
接続ケーブルをつなぐ	9
各部の名称と使い方	10
ON/OFFの使い方	13
客席調光部の使い方	14
点検、仕様について	17
故障かなと思ったら	18
日常点検	19
概略仕様	20

ご使用前に

付属品を確認する

本製品には以下の付属品があります。ご確認ください。

接続ケーブル（90cm）（1本）



仕込記入板 客席フェーダ用 1枚 ON/OFF用1枚

客席フェーダ用

ON/OFF用

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる方や他の方への危害、財産への損害を未然に防止するため必ずお守りしていただきたいことを、次のように説明しています。
表示内容の確認なしで、誤った使い方をしたときに生じる危険や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

警告表示内容の説明

取扱説明書に警告表示をしています。
装置の使用前に警告内容を必ず確認の上、安全にご使用ください。

シグナル用語の意味



警告 この表示の欄は、「使用者が取扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定される」また、「軽傷または物的損害のみの発生が想定される」内容です。



注意 この表示の欄は、「使用者が取扱いを誤った場合、軽傷を負う可能性が想定される」また、「物的損害のみの発生が想定される」内容です。

絵文字の例







記号は警告や注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

警告表示例

 警 告		シグナル用語
	装置の通風口をふさがらないで下さい。 火災・故障の恐れがあります。	指示文
	通電点検は電気工事士などの有資格者が行うこと。	
	装置の分解・改造は行わないで下さい。 火災・感電・故障の恐れがあります。	

絵文字



警 告



- ・装置の通風口をふさぐ物が置かれていないか確認してください。
ふさがれていると装置内部温度が上昇し、火災・故障の原因になります。



- ・装置の通電点検は、電気工事士などの有資格者が行ってください。
感電の恐れがあります。



- ・装置の分解、改造は行わないでください。
火災・感電・故障の恐れがあります。



注 意

1. 設置・取付けについて

- ・装置は屋内用です。屋外に設置しないでください。
屋外で使用すると、火災・感電・故障の原因になります。
- ・装置は発熱します。必ず換気された場所に設置してください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・直射日光・高温・多湿・塵埃・腐食性ガス・振動・衝撃等の環境は避けて設置してください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・装置の設置・取り付けは、机の上など水平の面にゴム足が4箇所確実に接触するようにしてください。
装置を傾けたり、手に持ったり、移動しながらなど不安定な場所で使用しないでください。
装置の転倒や火災・感電・故障の原因になります。
- ・装置の設置・取付時は、不安定な場所に設置しないでください。
装置の転倒や火災・感電・故障の原因になります。
- ・ACアダプタ、接続ケーブルは、メーカー指定の純正部品を使用してください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・接続ケーブル、電源ケーブル、DMXケーブル等のケーブル類を繰り返し折り曲げたり、伸ばしたりしないでください。ケーブルの破損につながります。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・接続ケーブル、電源ケーブル、DMXケーブル等のケーブル類を無理に引っ張らないでください。
感電・故障の恐れがあります。
- ・接続ケーブル、ACアダプタ（DC 12V）、調光出力のケーブルを抜き挿しする前にTOLSTARⅢ本体の主電源スイッチを切ってください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・接続ケーブル、電源ケーブル、DMXケーブル等のケーブル類は、コネクタに確実に接続してください。
接続ケーブルは必ず本体にねじ止めしてください。
コネクタがゆるんでいると火災・故障の原因になります。



注 意

- ・装置の移動は電源を切ってから行ってください。
火災・感電・故障の恐れがあります
- ・装置に強い衝撃を与えないでください。
火災・感電・故障の恐れがあります。
- ・装置に濡れた手で触れないでください。
感電の恐れがあります。
- ・遮断器がトリップした時は、必ず原因を取り除いてから再投入してください。
火災・感電・故障の恐れがあります。
- ・接続ケーブル、ACアダプタ（DC 12V）、調光出力のケーブルを抜き挿しする前に
TOLSTARⅢ本体の主電源スイッチを切ってください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・ACアダプタ本体は、安定した場所に設置してください。
火災・感電・故障の原因になります。

2. 使用前の準備について

- ・装置の使用前に必ず取扱説明書または注意書をお読みください。
お読みいただいた後は大切に保管し、必要なときに活用してください。
- ・装置の使用前の準備は、「舞台・テレビジョン照明技術者技能認定者」などの専門家が行ってください。
未熟練者だけでの対応は、間違いの原因になるおそれがあります。
- ・装置の日常点検を実施してください。
点検の結果、取扱説明書に記載されている基準をはずれている場合は、取扱説明書に基づき処置をしてください。
- ・装置は発熱します。換気されているか確認してください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・直射日光・高温・多湿・塵埃・腐食性ガス・振動・衝撃等がないか確認してください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・装置の設置・取り付けが不安定な場所に設置されていないか確認してください。
装置の転倒や火災・感電・故障の原因になります。
- ・ACアダプタ、接続ケーブルは、メーカー指定の純正部品を使用してください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・接続ケーブル、ACアダプタ（DC 12V）、調光出力のケーブルを抜き挿しする前に
TOLSTARⅢ本体の主電源スイッチを切ってください。
火災・感電・故障の原因になります。



注 意

- ・接続ケーブル、電源ケーブル、DMXケーブル等のケーブル類が無理に引っ張られていないか点検してください。
感電・故障の原因になります。
- ・接続ケーブル、電源ケーブル、DMXケーブル等のケーブル類がコネクタに確実に接続されているか確認してください。接続ケーブルは必ず本体にねじ止めしてください。
コネクタがゆるんでいると火災・故障の原因になります。
- ・装置に強い衝撃を与えないでください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・装置に濡れた手で触れないでください。
感電のおそれがあります。
- ・操作卓の上に灰皿・飲食物等を置かれていないか、確認してください。
感電・故障の原因になります。

3. 使用方法について

- ・装置を取り扱う場合は、「舞台・テレビジョン照明技術者技能認定者」などの専門家が行ってください。
未熟練者だけでの対応は間違いの原因になります。
- ・装置に強い衝撃を与えないでください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・装置に濡れた手で触れないでください。
感電のおそれがあります。
- ・操作卓の上に灰皿・飲食物等を置かないでください。
感電・故障の原因になります。
- ・装置を傾けたり、手に持ったり、移動しながらなど不安定な場所で使用しないでください。
装置の転倒や火災・感電・故障の原因になります。
- ・接続ケーブル等、ケーブル類を無理に引っ張らないでください。
感電・故障の原因になります。
- ・接続ケーブル、ACアダプタ（DC 12V）、調光出力のケーブルを抜き挿しする前にTOLSTARⅢ本体の主電源スイッチを切ってください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・地震などの天災の後、再使用前に「舞台・テレビジョン照明技術者技能認定者」などの専門家が点検を行ってください。
- ・塗装色、表示色は、同一製品内及びTOLSTARⅢシリーズの機器内であっても違いが生じることがあります。
- ・フェーダのつまみは、消耗品です。経年変化により取れやすくなる場合があります。
つまみの交換につきましてはメーカーにお問い合わせください。



注 意

4. 保守点検について

- ・装置の日常点検を実施してください。点検の結果、取扱説明書に記載されている基準をはずれている場合は、取扱説明書に基づき処置をしてください。
- ・装置の点検（整備）は「舞台・テレビジョン照明技術者技能認定者」などの専門家が行ってください。未熟練者だけでの対応は、火災・感電・故障の原因になります。
- ・装置の点検・清掃時は、必ず電源を切ってください。
電源を切らないと感電するおそれがあります。
- ・ACアダプタ、接続ケーブルは、メーカー指定の純正部品を使用してください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・電源ケーブル、接続ケーブル、DMXケーブル等、ケーブル類を無理に引っ張らないでください。
感電・故障の原因になります。
- ・接続ケーブル、ACアダプタ（DC 12V）、調光出力のケーブルを抜き挿しする前にTOLSTARⅢ本体の主電源スイッチを切ってください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・装置に強い衝撃を与えないでください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・装置に濡れた手で触れないでください。
感電のおそれがあります。
- ・装置の安全で正常な動作を維持するため、定期的に製造業者、専門家の点検・調整を受けてください。
- ・交換部品は、メーカー指定の純正部品を使用し、取扱説明書に基づき確実に処置をしてください。
装置の火災・感電・故障の原因になります。

5. 異常時の対処について

- ・煙が出たり変な臭いがするなどの異常事態には、すぐに電源を切ってください。
火災・感電の原因になります。
- ・装置の異常と思われるときには、異常の原因を究明してください。
容易に原因の究明ができない場合は、メーカーに修理依頼をしてください。
- ・地震などの天災の後、再使用前に「舞台・テレビジョン技術者技能認定者」などの専門家が点検を行ってください。
未熟練者だけでの対応は、火災・感電・故障の原因になります。

6. 保管時について

- ・直射日光・高温・多湿・塵埃・腐食性ガス・振動・衝撃等の環境に保管しないでください。
故障・絶縁不良の原因となります。
- ・再使用するときは、点検を必ず行ってから使用してください。
火災・感電・故障の原因となるおそれがあります。

客席調光ユニット の使い方

接続ケーブルをつなぐ



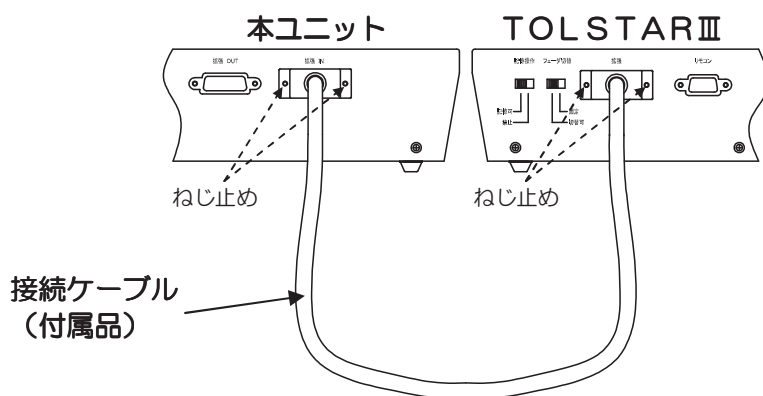
警告



・配線を接続するときは、TOLSTARⅢ本体の主電源をOFFし、電源ケーブルをコンセント（AC100V）につながないでください。
感電・故障の恐れがあります。

TOLSTARⅢと客席調光ユニットをつなぐ場合

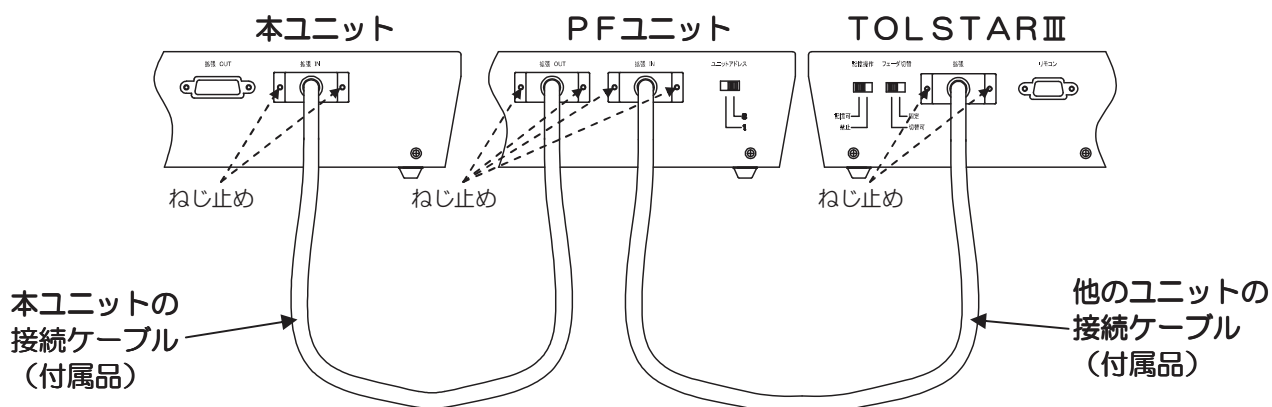
TOLSTARⅢの拡張コネクタと本ユニットの拡張INコネクタ間を接続ケーブルでつなぎます。
接続ケーブルは本体にねじ止めしてください。



他のユニットとつなぐ場合

TOLSTARⅢには、最大3台の拡張ユニットを接続できます。最大構成は、PFユニット（20×2又は30×2）2台と客席調光ユニット1台です。

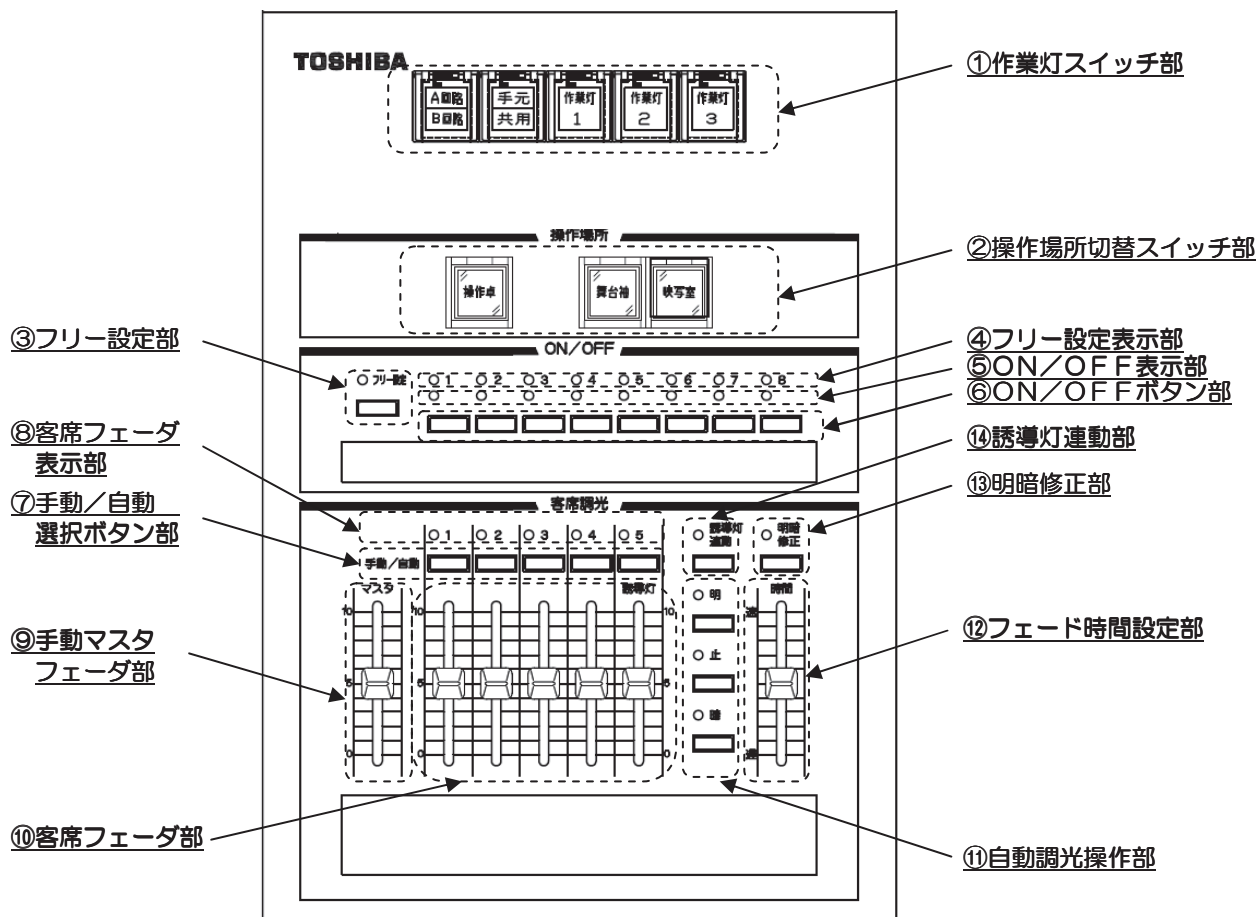
他のユニットとつなぐ場合は、つなぎ先又はつなぎ先のさらに先のユニットをTOLSTARⅢとつないでおく必要があります。接続ケーブルは本体にねじ止めしてください。



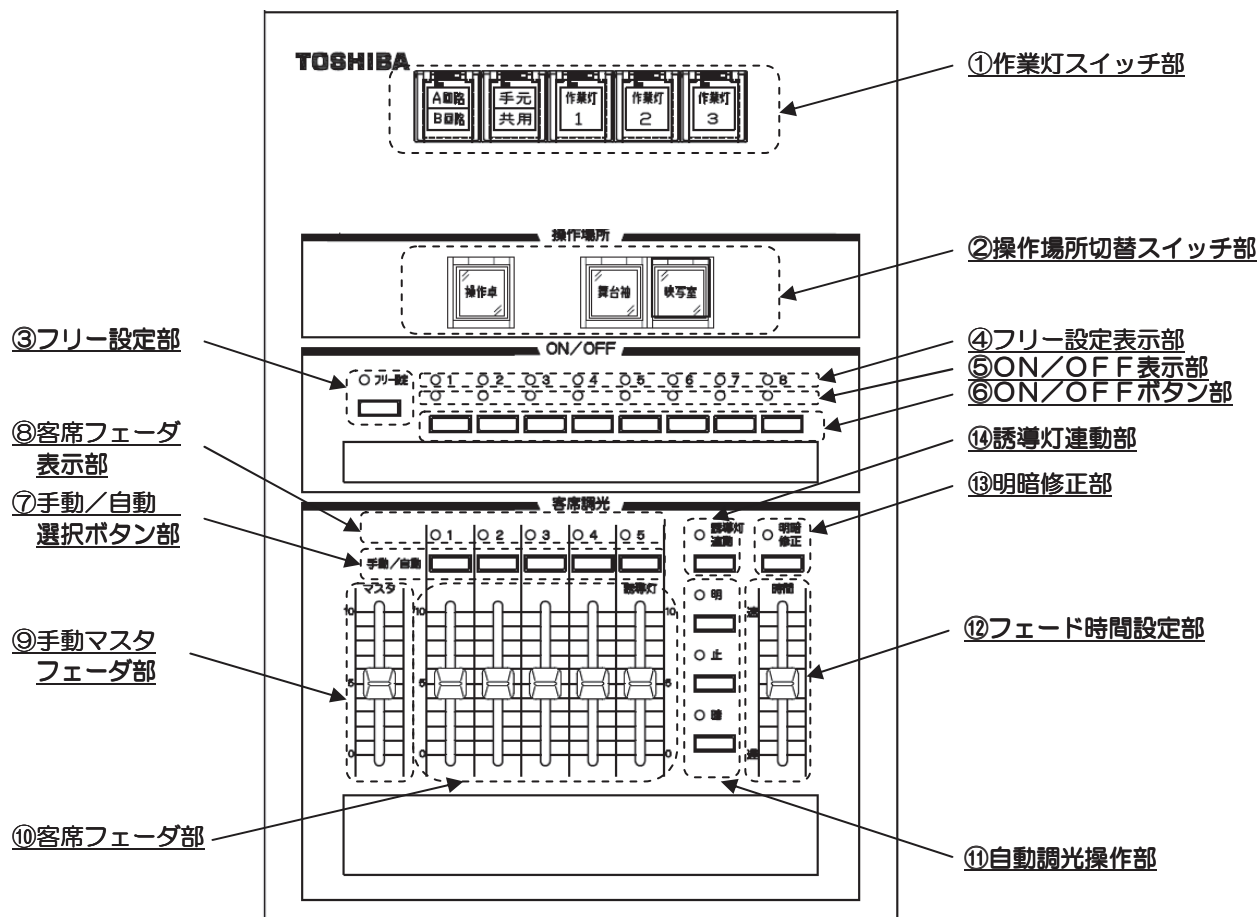
各部の名称と使い方

操作パネル

- ① 作業灯スイッチ部 オプションスイッチです。ご使用の際は、設備のシステム設計が必要となります。メーカーにお問い合わせください。
- ② 操作場所切替スイッチ部 オプションスイッチです。ご使用の際は、設備のシステム設計が必要となります。メーカーにお問い合わせください。
- ③ フリー設定部 ON/OFF ボタンをフリーに設定（又は解除）する際に使用します。LEDが緑点灯時はフリー設定モード中です。LED点灯中は、ON/OFF ボタンをフリー／通常を選択に使用します。
- ④ フリー設定表示部 ⑥ON/OFF ボタンがフリー設定時に点灯します。フリー設定の灯りは、シーン再生（又は記憶）に関係なく手動操作のみで灯りを操作します。
- ⑤ ON/OFF 表示部 割り付けた灯りが点灯時、赤点灯、消灯時、消灯します。
- ⑥ ON/OFF ボタン部 ボタンに割り付けた灯りを操作（点灯／消灯）します。フリー設定モード中（③点灯中）は、フリー／通常の切替えに使用します。



- ⑦ 手動／自動選択ボタン部 客席フェーダに割り付けた灯りをフェーダで操作するか、自動（明、止、暗 ボタン）で操作するか選択します。
- ⑧ 客席フェーダ表示部 手動設定のフェーダは、緑点灯します。自動設定のフェーダは灯りのレベルを赤調光で表示します。
- ⑨ 手動マスターフェーダ部 手動設定のフェーダにかかるマスターフェーダです。
- ⑩ 客席フェーダ部 客席灯りのレベルを操作します。手動設定のフェーダでは、客席灯りをフェーダで操作します。自動設定のフェーダでは、明、暗の灯りを修正保存する際に使用します。
- ⑪ 自動調光操作部 明、止、暗のボタン操作で客席灯りを操作します。手動設定のフェーダの灯りはボタン操作で変化しません。
- ⑫ フェード時間設定部 フェーダのレベルが自動調光のフェード時間となります。手前側が40秒、奥に行くほどフェード時間が短くなります。
- ⑬ 明暗修正部 明、暗へ客席灯りを修正記憶する際に使用します。LED点灯中は、修正モードとなり、明、暗の灯りを修正記憶できます。オプション機能である誘導灯点／消灯のトリガレベル設定時にも使用します。
- ⑭ 誘導灯連動部 オプションボタンです。LED点灯時、誘導灯連動モードとなり、客席フェーダ（5）の位置に連動して誘導灯のON／OFF信号をオプションコネクタから出力します。ご使用の際は、システム設計が必要となります。メーカーにお問い合わせください。



ON/OFFの使い方

(1) パッチについて

設定方法は、TOLSTARⅢの取扱説明書「ユーザパネルを使う ON/OFF」を参照してください。場面无し（TOLSTARⅢ 場面1～3LEDが消灯）では、負荷番号186～193に割り付いています。パッチで割り付ける負荷番号は、プリセットフェーダ、客席フェーダと重複することができます。同じ負荷番号の灯りを複数の方法で点灯した場合には、もっともレベルの高い（明るい）灯りが点灯します。

(2) ON/OFF 灯りの手動再生について

ON/OFFボタン（⑥）を押すたびにボタンに割り付けた負荷番号の灯りが0%/100%へ切り替わります。100%の時、ON/OFF表示（⑤）のLEDが点灯します。

(3) シーンについて

ON/OFFスイッチの状態はシーンに保存します。

シーンを再生するとシーンのレベルが15%を超えたきっかけでON/OFFの灯りを再生します。クロスフェーダでシーンを再生した場合には、IN側（タリーLEDが緑又は橙色）のフェーダが15%を超えたときにON/OFFの灯りを再生します。

シーンで再生した灯りを手動（ON/OFFボタンを押す）で消灯、点灯することもできます。

(4) フリー設定について

フリーに設定したON/OFFの灯りはシーンに保存されません。また、シーン再生しても変化しません。ON/OFFボタン（⑥）の操作のみで灯りを操作します。

ON/OFFをフリー設定にする（又は解除する）手順は以下の通りです。

手順1 フリー設定ボタン（③）を押す：

⇒フリー設定LED（③）が点灯する

手順2 フリーに設定するON/OFFボタン（⑥）を押す

⇒フリー設定表示LED（④）が緑点灯し、そのON/OFFがフリー設定になる。

手順3 フリー設定ボタン（③）を押す：

⇒フリー設定LED（③）が消灯する

* 手順1の時点で フリー設定表示LED（④）が緑点灯している場合、

手順2の操作で フリー設定表示LED（④）が消灯し、そのON/OFFのフリー設定が解除される

客席調光部の使い方

(1) パッチについて

設定方法は、TOLSTARⅢの取扱説明書「場面にパッチを仕込む」を参照してください。
パッチの操作は、プリセットフェーダのフェーダ選択ボタンのかわりに自動／手動選択ボタン（⑦）を使用します。場面無し（TOLSTARⅢ 場面1～3LEDが消灯）では、負荷番号181～185に割り付いています。パッチで割り付ける負荷番号は、プリセットフェーダ、ON/OFFと重複することができます。同じ負荷番号の灯りを複数の方法で点灯した場合には、もっともレベルの高い（明るい）灯りが点灯します。

(2) 手動調光について

客席フェーダ表示LED（⑧）が緑点灯している客席フェーダを手動調光で使します。
客席フェーダ（⑩）を操作して客席灯りを調光します。また、手動マスターフェーダ（⑨）で手動調光全体の灯りを調光します。
自動調光に設定した客席フェーダにパッチされた灯りは、自動調光の操作で変化しません。

客席フェーダを自動調光にする（又は自動調光に設定する）手順は以下の通りです。

- 手順1** 自動調光する客席フェーダの客席フェーダ表示LED（⑧）を確認する
⇒点灯している：客席フェーダ（⑩）で手動調光します
⇒消灯している：手順2へ
- 手順2** 自動／手動選択ボタン（⑦）を押す
⇒客席フェーダ表示LED（⑧）が緑点灯します
客席フェーダ（⑩）で手動調光します

注意：手動調光の設定は、TOLSTARⅢの電源を切って、再度入れた場合でも保持されています。TOLSTARⅢを記憶禁止設定にした場合、手動／自動の切替えはできません。

- (3) 自動調光操作部 (⑪) の明ボタン、暗ボタンに予め保存しておいた灯りを再生します。
自動調光の灯りは、フェード時間設定部 (⑫) のフェーダで設定した時間でフェードチェンジします。

明ボタン、暗ボタンへ灯りを保存する手順は以下の通りです

手順1 明暗修正ボタン (⑬) を押す

⇒明暗修正LED (⑬) が緑点灯します

⇒自動調光操作部 (⑪) すべてのLEDが消灯します

手順2 修正するボタン (明ボタン又は暗ボタン) を押す

⇒押したボタンのLEDが赤点滅します

客席フェーダ表示LED (⑧) が以下の表示をします

- ・保存されている灯りが0レベルのフェーダ 消灯
- ・保存されている灯りが0レベル以外のフェーダ 赤点滅
- ・保存されている灯りと

フェーダのレベルが一致しているフェーダ 赤調光

手順3 修正する灯りの客席フェーダ (⑩) を操作し、保存した灯りと一致

(客席フェーダ表示LED 赤調光) させる

次に、修正する灯りのレベルに調整する

手順4 すべての灯りの修正が終わった時点で自動調光操作部 (⑪) の明ボタン又は暗ボタン

2回 (1回目 赤点滅、2回目 消灯) を押す

⇒自動調光操作部 (⑪) すべてのLEDが消灯します

手順5 明暗修正ボタン (⑬) を押す

⇒明暗修正LED (⑬) が消灯します

修正操作をキャンセルしたいときは、手順5をおこなってください。その際、灯りの急転を保護するため、修修正中の灯りを保持します。もう片方の灯り (例えば、明を修正していた場合、暗の灯り) が100%再生された時点で保持を解除します。

自動調光で灯りを再生する手順は以下の通りです。

- ・明ボタン又は暗ボタンを押すと保存した客席灯りにむかってフェードチェンジします。
- ・フェード中に止ボタンを押すとその状態の灯りで固定します。
- ・フェード中に止めた状態から、点滅している側のボタン (明又は暗) を押した場合には、残りのフェード時間でフェードチェンジします。
- ・フェード中に止めた状態から、消灯している側のボタン (明又は暗) を押した場合には、経過したフェード時間でフェードチェンジします。
- ・自動調光操作部 (⑪) LEDの状態は以下の通りです。

状態1 明：点灯 止：点灯 暗：消灯

客席の灯りは明の状態です

状態2 明：消灯 止：点灯 暗：点灯

客席の灯りは暗の状態です

状態3 明：点滅 止：点灯 暗い：消灯

客席の灯りは明へフェード中の状態で止まっています

状態4 明：消灯 止：点灯 暗い：点滅

客席の灯りは暗へフェード中の状態で止まっています

注意：手動調光のフェーダに割り付けた灯りは、自動調光の操作では変化しません。

フェード中には、TOLSTARⅢの表示部にフェード時間が表示されます。

(4) 自動調光のフェード時間について

フェード時間設定部のフェーダを操作してフェード時間を調整します。
一番手前が 40 秒、一番奥が 0 秒です。

(5) 誘導灯連動について（オプション機能）

客席フェーダ部 右から 5 本目のフェーダに割り付けた灯りの出力レベルに連動して、誘導灯信号の ON/OFF を行います。誘導灯の ON/OFF は、予め設定したレベルに対して出力レベルが低い場合に OFF、高い場合に ON します。

誘導灯 ON/OFF レベルの設定手順は以下の通りです。

手順1 明暗修正ボタン (13) を押す

⇒明暗修正 LED (13) が緑点灯します

手順2 誘導灯連動ボタン (14) を押す (LED 緑点滅)

手順3 客席フェーダ部 (10) 右から 5 本目を操作し、設定するレベルに調整する

手順4 誘導灯連動ボタン (14) を 2 回 (1 回目 緑点滅、2 回目 消灯) 押す

手順5 明暗修正ボタン (13) を押す

⇒明暗修正 LED (13) が消灯します

誘導灯 ON/OFF をおこなう場合の設定手順は以下の通りです。

手順1 誘導灯連動ボタン (14) を押す

⇒誘導灯連動 LED (14) が緑点灯します

客席フェーダ (10) 左から 5 本目にパッチされた負荷番号のレベルに連動して
誘導灯信号が ON/OFF します

手順2 誘導灯連動ボタン (14) を押す

⇒誘導灯連動 LED (14) が消灯します

誘導灯信号は出力されません

点検、仕様 について

故障かなと思ったら

・客席調光ユニットが動かない

確認1 TOLSTARⅢの主電源はONしていますか。

⇒ 主電源をONしてください。

確認2 TOLSTARⅢの操作電源のLEDは点灯していますか。

⇒ 操作電源をONしてください。

確認3 接続ケーブルは、正しくつながれていますか。

⇒ 接続ケーブルをつなぐ（→P9）を参照して正しくつないでください。

・灯りがでない

確認1 TOLSTARⅢに調光出力コネクタにケーブルは差さっていますか

⇒ DMX規格のケーブルで本体と調光装置を接続してください。

確認2 パッチはされていますか

⇒ ON/OFFまたは客席フェーダに負荷をパッチしてください

確認3 TOLSTARⅢの場面は正しいですか

⇒ 使用する場面を選択してください

確認4 手動マスターフェーダが0%（一番手前）になっていませんか

⇒ 手動マスターフェーダを上げてください

確認5 ON/OFF フリー設定部のLEDが点灯していませんか。

⇒ フリー設定モードを解除してください。

・パッチができない

確認1 TOLSTARⅢの場面がデフォルト場面になっていませんか。

（場面 1, 2, 3 LEDが消灯）

⇒ 場面1～3を選択してください

確認2 本体 背面パネルの記憶操作スイッチが「禁止」になっていませんか

⇒ 記憶操作スイッチを「記憶可」に設定してください。

・客席フェーダが手動操作 設定にできない

確認1 TOLSTARⅢ 背面パネルの記憶操作スイッチが「禁止」になっていませんか

⇒ 記憶操作スイッチを「記憶可」に設定してください。

・ブザー音（ボタン音）がしない

確認1 ブザー音がしない設定になっていませんか

⇒ ブザー音を設定してください。

日常点検

日常点検

TOLSTARⅢを安全にご使用いただくために日常点検をおこなってください。

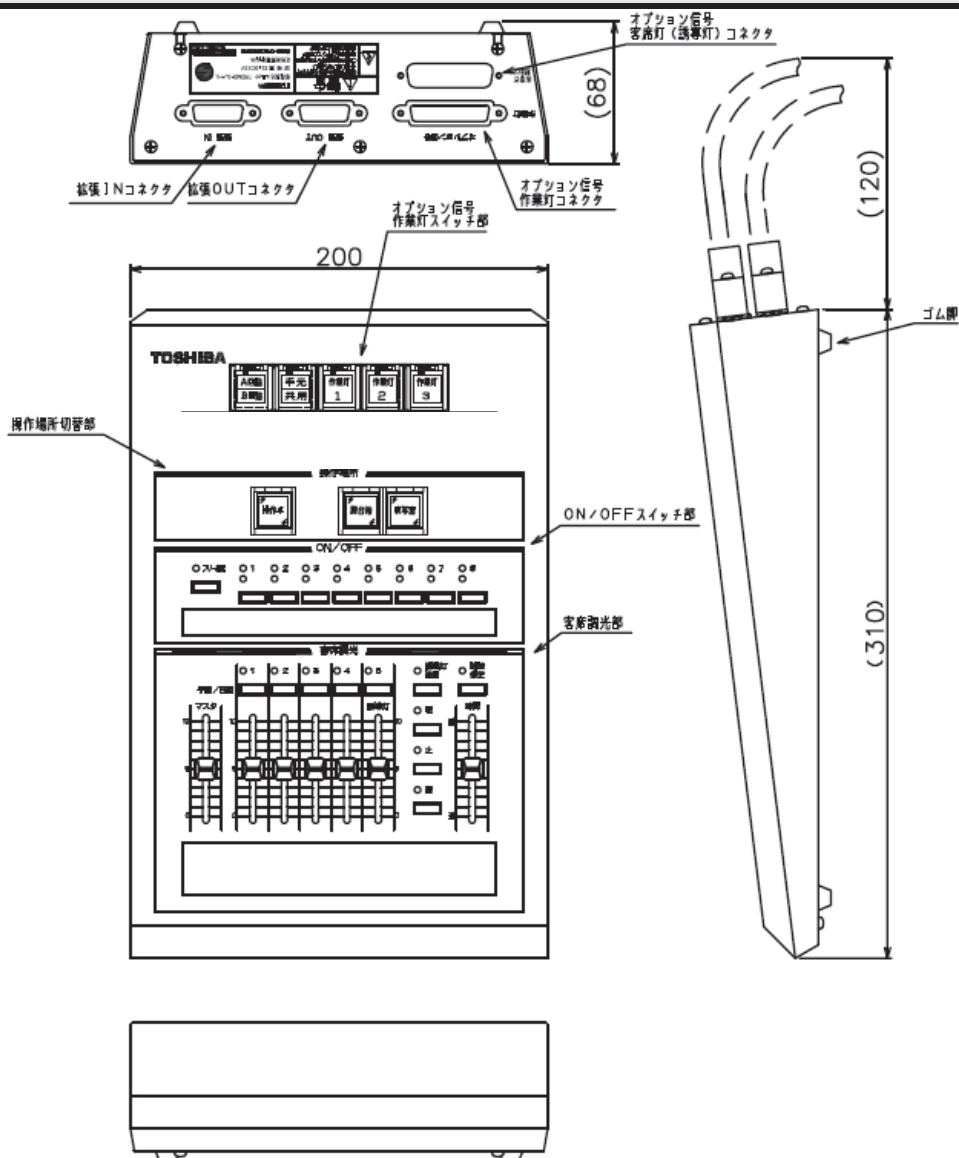
確認部位	確認内容	処置
接続ケーブル	各ユニットと接続ケーブルが確実に接続されているか コネクタ固定ネジに緩みはないか	コンセントから電源ケーブルを抜いた後、接続、ねじ止めしてください
接続ケーブル	接続ケーブルに変形、亀裂がないか	交換をお勧めします お買い上げ販売店（工事店）へご相談ください
ユニット本体	LED、ボタン、スイッチに破損はないか 動作に異常はないか	
背面コネクタ	コネクタにガタつきはないか	
PFユニット本体 接続ケーブル	汚れていないか	清掃してください

定期点検のお勧め

使用期間における経年変化またはご使用の状況によって、消耗、劣化する部品または絶縁の低下が懸念されます。専門技術者による定期点検をお勧めします。

定期点検は弊社との保守点検契約をお勧めします。

概略仕様



基本仕様

型名	TRDM3-5J-HL	付属品	接続ケーブル (90cm) 仕込み記入板一式
本体質量 (kg)	2.5kg (接続ケーブル含まず)	オプション *1	
本体入力電源	DC12V±10% (TOLSATRⅢ本体から接続ケーブルにより供給)	操作場所切替	操作場所 卓/舞台袖/映写室の切り替え スイッチ3個
消費電流	(DC12V) 0.5A以下	A/B回路スイッチ	1個 (2分割照光スイッチ)
動作環境	屋内、結露しないこと	手元/共用スイッチ	1個 (2分割照光スイッチ)
周囲温度	0~40℃	作業灯スイッチ	3個 (照光スイッチ)
客席フェーダ	5本 + マスターフェーダ1本	誘導灯連動	オープンコレクタ信号出力
客席自動調光	明、止、暗ボタンによる調光	客席スイッチパネル	明、止、暗 信号
客席手動調光	客席フェーダによる手動調光	用信号	接点入力、 LED出力 (映写室用)
自動調光フェード時間調整	フェード時間調整用フェーダ1本 (0~40秒)		
ON/OFF	8個 シーン連動/フリーの切替機能		

*1 オプション機能の使用には設備のシステム設計が必要です。メーカーにお問い合わせください。

保証について

・保証期間は、商品お買上げ日より1年間です。但し、LED器具の点灯装置は3年間です。取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った使用状態で保証期間内に故障した場合に、無償修理させていただきます。

・ランプ、点灯管、電池などの消耗品は対象外です。

※保証の例外

24時間連続使用など、1日20時間以上の長時間使用の場合は、上記の半分の期間とします。

保証の免責事項

1. 保証期間内でも次の場合には原則として有料にさせていただきます。

- (1) 使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷
- (2) お買上げ後の取り付け場所移設、輸送、落下などによる故障及び損傷
- (3) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障及び損傷
- (4) 車両、船舶等に搭載された場合に生じる故障及び損傷
- (5) 施工上の不備に起因する故障や不具合
- (6) 法令、取扱説明書で要求される保守点検を行わないことによる故障及び損傷
- (7) 日本国内以外での使用による故障及び損傷

2. 離島および離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合には出張に要する実費を申し受けます。

修理を依頼されるとき

・保証期間中は、お買上げ日を特定できるものを添えてお買上げ販売店（工事店）までお申し出ください。

・保証期間を過ぎている時は、お買上げ販売店（工事店）にご相談ください。

修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

・アフターサービスについてご不明な点並びに修理に関するご相談は、お買上げ販売店（工事店）にお問い合わせください。その際は器具の形名、お買上げ時期をお忘れなくお知らせください。

日本国内専用
Use only in Japan

東芝ライテック株式会社 <https://www.tlt.co.jp>

北海道地区 (首都圏営業所)	〒063-0814	北海道札幌市西区琴似4条2-1-2 コルテナII	TEL.011-624-1181	FAX.011-615-3168
東北営業所	〒980-0803	宮城県仙台市青葉区国分町2-2-2 東芝仙台ビル	TEL.022-264-7261	FAX.022-263-7660
首都圏営業所	〒212-8585	神奈川県川崎市幸区堀川町72-34 ラゾーナ川崎東芝ビル	TEL.050-3148-9825	FAX.044-548-9638
中部営業所	〒451-0064	愛知県名古屋市中区名西2-33-10 名西二丁目ビル	TEL.050-3191-3163	FAX.052-528-1545
関西営業所	〒530-0017	大阪府大阪市北区角田町8番1号 大阪梅田ツインタワーズ・ノース	TEL.050-3147-0843	FAX.06-6130-1169
中国営業所	〒730-0017	広島県広島市中区鉄砲町7-18 東芝フコク生命ビル	TEL.050-3164-9903	FAX.082-212-1249
九州営業所	〒810-0072	福岡県福岡市中央区長浜2-4-1 東芝福岡ビル	TEL.050-3191-7172	FAX.092-735-3446

営業所名・住所・電話番号などは変更になる場合があります。
最新情報は右記 QR コードより弊社ホームページをご確認ください。



お読みになったあとも必ず保存してください。

233250E